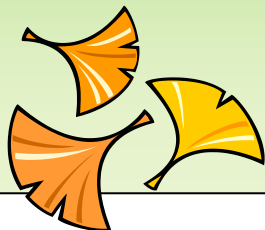




志木中だより



11月号 平成28年11月1日

志木市立志木中学校

志木市柏町3-2-2

TEL048-471-0143

“顔の見えない社会”の病理

校長 飯田 寛

2学期も中盤戦にさしかかりました。季節は秋まっさかり、武蔵野を覆い尽くすかのようないわし雲のもとで、今夏設置していただいた国旗掲揚塔の三旗（国旗・市旗・校旗）が力強くはためいています。

新人体育大会では、2年生を中心にどの会場でも粘り強い試合が繰り広げられました。しっかりと声を出し、決して試合をあきらめない姿に感銘しました。各会場でのたくさんの応援に感謝いたします。

また、先月28日の合唱祭では、70周年記念に相応しい素晴らしいハーモニーで体育館がいっぱいになりました。志木中の歌声は天下一品です。それにかける生徒たちの真剣な表情も自慢の一つです。多くの方々のご来校ありがとうございました。



合唱でも部活動でも、ある一定の成果をあげるにはそれ相応の努力が必要です。教員も時に厳しく指導し、時に檄を飛ばすこともあります。しかし、今の時代、子供達が生きていく上での厳しさが他にあるのでしょうか。物質的に何不自由なく暮らしている子供にとって、時に叱責され、時に厳しい言葉で指導されることは、子供にとって大きな意義があり、特に心の成長にとって必要とさえ私は思います。受容・容認だけでは子供は強く育ちません。

もちろん、子供の人格を傷つけるような言動は論外です。それはもう“指導”ではありません。言葉の暴力をはじめ身体的な体罰は厳禁です。“厳しさ”は、あくまでも教師と生徒とが対面し、その人間関係の中で成立するものなのです。その中で、人は言葉の使い方やその調整、感情のコントロールなどを体で学んでいきます。いわゆる人との接し方、社会性が育つのです。

ところが、近年のネットの発達によって言葉の調整が狂ってきているようです。ネットの掲示板では、気に入らないことがあるとすぐに反論を書きこみます。自分と少しでも意見が違うと、すぐに感情的にぶつかり合ってしまう時代です。自分と異なる意見や相手に対する「こらえ性」がなくなっている感じがします。学校に寄せられるクレームの大半も匿名です。私としては、顔を見ながら対面して対応させていただきたいのですが、なかなか叶いません。そして、自分の見方・論理のみで学校を攻撃してきます。そこには、相手との距離感をはかり、言葉をコントロールする姿勢が感じられません。（中には示唆に富む箴言もあります）

人と人とがもっと「あそび」「ゆとり」をもって対面して話し合う時間を大切に、「顔の見える関係」をつくりあげてい

きたいものです。